

論文要旨

中国語と日本語の否定表現における比較研究

言語表現にはさまざまな内容があり、肯定と否定表現は、その中で最も根本的な表現だと考えられる。本論では中日両言語における否定表現について、事物、動作、状態、感覚などに対して否定判断を行う際に、即ち客観存在に対する主観的な否定判断を行う場合に用いられている言語形式の異同を考察したものである。

中国語と日本語は語順、否定形式テンス・アスペクト・ボイスなどの相違によって、否定表現にも大きな違いが生じてくる。日本語は粘着語であるため、述語である動詞・形容詞を否定或いは文全体を否定する場合、常に否定表現が文末に置かれるのに対して、従来より中国語と日本語は各自の否定表現はある程度研究されている。中国語の否定は述語の前、つまり、否定される成分の前に置くことが多い。中国語の否定詞“不”“没”などは、日本語の否定成分である「～ない」「～なかった」「～ていない」「～ていなかった」など対応しているように見られるが、その中における細かなテンス・アスペクト・ボイス表現の対照は複雑である。

また、否定表現には二種の方法があると思われる。一つは、形式的否定表現であり、もう一つは、語用的否定表現である。前者は基本的に否定の構文要素（「ない」、「不」など）を含む否定形式の構文を通して否定の意味を示す。後者は、否定の構文要素を含まない肯定形式などの構文を通して、特殊な文脈や文型に頼って否定の意味を表す。現在、中国語と日本語の否定表現の研究は否定詞に限って行われているが、語用的否定表現に関する研究がまだ少ないようである。

本研究では形式的な否定表現と語用的な否定表現を分けて考察を行う。前者について形式的否定表現における“不”をメイン対象とし、その否定の意味と機能、主客観性、否定と時制の関係、否定の焦点と範囲及び否定詞の交替表現などを記述する。後者については、否定詞を用いないにもかかわらず否定の意味を表す言語現象をまとめた上、疑問詞、反文、否定の意味を含む単語、特殊な文脈や文型などに頼って否定の意味を示す否定表現を記述する。

中日両国語の否定表現におけるそれらの相違を把握・運用することは、通訳、第二言語教育に欠かせないので、日本語を学習する中国語母語者、中国語を学習する日本語母語者にとって重要な意義がある。本研究では先行研究を踏まえて、中国語と日本語の否定表現を体系的に論じ、その対象関係を大まかに、形式否定、語用否定に分けて分析するものとして、中日両国語習得の際に、否定表現において誤りしやすい点をはっきりさせ、また体系的に比較・分析し、それを運用できるよう目的としている。

本論文に6章により構成され、各章の概要は以下のようである。

はじめに

本論の研究対象・目的・先行研究と研究方法等を述べている。

第1章 中日両語の否定構成要素の位置・テンスの異同

1.1 中日両語の否定構成要素の位置の異同

1.2 中日両語の否定構成要素のテンスの異同

1.1 は中国語と日本語の否定詞が動詞・形容詞・助動詞・述語＋目的語・連用修飾語＋中心語・述語＋補語を否定する場合は否定構成要素の位置の異同を考察した。1.2 は中国語と日本語の将来時制・現在時制・過去時制を否定する場合から見て否定構成要素のテンスの異同の分析を行った。

第2章 中国語否定詞“不”と日本語否定詞に対して対照分析

2.1 “不”は動作、行為を否定する場合と日本語の対照分析

2.2 “不”は願いを否定する場合と日本語の対照分析

2.3 “不”は事物の可能を否定する場合と日本語の対照分析

2.4 “不”は事物の必要を否定する場合と日本語の対照分析

2.5 “不”は事物の性質を否定する場合と日本語の対照分析

2.6 “不”の修飾を受けない単語

本章では中国語の否定詞“不”と日本語の否定詞「～ない」「～ていない」の異同を比較を行っている。動作、行為の動詞及び願い・事物の可能・事物の必要などの助動詞と事物の性質の形容詞の前につけて、否定の意味を表す。最後、“不”の修飾を受けない単語をまとめた。

第3章 中国語否定詞“没”と日本語否定詞に対して対照分析

- 3.1 “没”は動作、行為を否定する場合と日本語の対照分析
- 3.2 “没”は願いを否定する場合と日本語の対照分析
- 3.3 “没”は事物の可能を否定する場合と日本語の対照分析
- 3.4 “没”は事物の変化を否定する場合と日本語の対照分析
- 3.5 “没”の修飾を受けない単語

本章では中国語の否定詞“没”と日本語の否定詞「～なかった」「～ていない」の異同の比較研究を行っている。動作、行為の動詞及び願い・事物の可能などの助動詞と事物の変化の形容詞の前につけて、否定の意味を表す。最後、“没”の修飾を受けない単語をまとめた。

第4章 中国語の文法的な否定と日本語の対照分析

- 4.1 スコープ（範囲）・フォーカス（焦点）の否定
- 4.2 文の構成の否定

本章の4.1は文法的な視点から見て中国語と日本語の否定スコープ（範囲）・フォーカス（焦点）が語順とアクセント及び語境の違いによって、否定スコープ（範囲）・フォーカス（焦点）の移動を分析していた。4.2は主語・述語・目的語・連用修飾語と連体修飾語を否定する場合は中日両語の否定スコープ（範囲）・フォーカス（焦点）の異同を考察した。

第5章 中国語の語用的な否定と日本語の対照分析

- 5.1 反問の否定
- 5.2 隠語の否定

本章の5.1は事物疑問代名詞・場所疑問代名詞・人称疑問代名詞・方式疑問代名詞・数量疑問代名詞・反問副詞・助動詞と補語など通して否定の意味を示す非マーク否定文を述べている。5.2は特殊の単語・仮定文・語境・感嘆語気・反語と婉曲表現など通して否定の意味を示す非マーク否定文をまとめた。

第6章 終わり

本論の初歩的な結論、考察の不足点と今後の研究課題をまとめて述べた。

参考文献